

平成31年2月13日

～春の訪れを告げる梅がほのかに香る～

向島百花園の梅が見ごろを迎えています！

現在、都立向島百花園（東向島三丁目18番3号）で、白や濃いピンクの梅の花が咲き始め、その可憐な姿がほのかに甘酢っぱい香りとともに訪れる人を楽しませている。

本日は、真っ白な花びらを咲かせる「白加賀（しらかが）」や「青軸（あおじく）」、濃いピンク色の花びらをつける「唐梅（とうばい）」の一部が見頃を迎えているほか、花を咲かせていない梅の木も、その枝先にあるつぼみは大きく膨らんでいて開花が近いことがわかる。

2月24日（日）には、南京玉すだれや独楽回しなど、江戸時代から続く伝統芸を楽しむことができるイベントも開催。3月3日（日）は、初代当主の佐原 鞠塙（さはら きくう）の出身地である仙台が発祥の、葛飾北斎も描いた「すずめ踊り」が披露される予定。梅の香りとともに江戸の趣を楽しむことができる梅まつりは3月3日（日）まで開催される。

なお、向島百花園とならんで梅の名所として名高い小村井香梅園（文花二丁目5番8号）では、2月16日（土）から「香梅園梅まつり」を開催。こちらでも梅の花見とともに、16日（土）と17日（日）には、琴の演奏のほか、抹茶（有料）を楽しむことができる。



【梅まつりの歴史】

都立向島百花園は、江戸の町人文化が花開いた文化・文政期（1804～1830年）に骨董商を営んでいた佐原 鞠塙（さはら きくう）が、交遊のあった江戸の文人墨客の協力を得て、草花鑑賞を中心とした花園として開園。開園当初は360本の梅が主体であったことから、亀戸の梅屋敷に対して「新梅屋敷」と呼ばれ、江戸庶民に愛される名所となった。現在、百花園では「新梅屋敷」の名にふさわしく20品種70本の梅を楽しむことができるほか、梅以外の様々な植物を見ることができる。

《問合せ》向島百花園 TEL 3611-8705

■「向島百花園梅まつり ～梅花彩る江戸屋敷～」

【期 間】平成31年3月3日（日）まで

【時 間】午前9時～午後5時（入園は午後4時30分まで）

【内 容】別紙チラシのとおり

【入園料】一般150円 65歳以上70円（小学生以下及び都内在住・在学の中学生は無料）

■「香梅園梅まつり」

【期 間】平成31年2月16日（土）～3月3日（日）午前10時～午後2時半

※期間中の土日に開園

【内 容】すみだ親善大使の写真撮影会（16日 午前11時から）

琴の演奏・抹茶等の接待（16日・17日 午前11時から）

【入園料】無料